

## 富士山須走ルート 山スキー報告

山行日：平成 29 年 5 月 2 日（火）

天候：晴・風あり

登山方法：山スキー

メンバー：CL 菊池 SL 長池 薄井（記録） 会員外 I

行動時間：須走登山口 7:20 - スキー登高開始地点（2,333m）8:45-2,780m 地点  
10:30-2,820m 地点 12:10-滑走終了地点 12:52 - 登山口 13:35

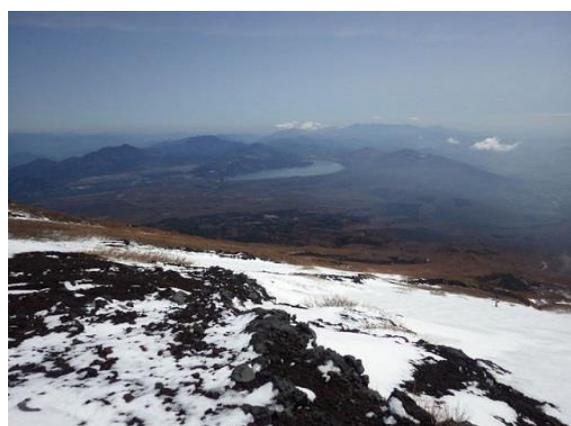


初めて須走登山口にやってきた。シーズンでないからか夏の吉田口のような観光地の雰囲気はなく閑散としている。隣で単独のスキーヤーが準備している。こちらも準備をすませ、隅に砂礫がこんもりと盛られまるで工事現場のような駐車場から雪を求めて登山道に入った。道はざらざらとして歩きづらく、富士山は何だかやっぱり山としての魅力は今ひとつかなあと思う。

標高 2,333m でスキーを履き、シール登高を開始した。長池さんだけは引き続きスキーを担ぎ、アイゼンをつけて歩くとのこと。今日の長池さんは病み上がりなので、他のメンバーから離れて最後尾をゆっくりと登ってきた。



いつも頑張って滑走するフェイナーレの沢も雪が繋がってなく今回は滑走不能  
今シーズンは昨年に比べるとはるかに雪が多いと言われているが、富士山はそれほどでもないようだ。下から見上げる富士山は3時間もあれば登頂できそうに思えるが、先行している単独者らしき小さな影がさっぱり動かないように見えるところ、やはり道のりは遠いらしい。見通しはよく、ルートに迷うようなことはない。だだっ広い斜面をひたすら上へ行けばよいだけだ（下りは要注意）。目印はところどころに顔を出している岩稜帯で、とりあえずあの岩が切れるところまで、などとそれぞれのペースで登る。



広大な斜面のシール登行は気持ちよい

滑走開始地点から山中湖を俯瞰

標高 2,770m 地点から最初の滑走をスタートすることにした。雲を見下ろす景色は標高の高さを思わせるが、この上にまだ 1,000m もあるのだ。

富士山初滑走だが、個人的には快適というには斜面がもう少し緩んでいてほしいところ。再度シールをつけて、今度はもう少し上を狙う。できれば 3,000m 程度まで高度を上げたいが、風が強いからか時間がたっても考えていたほど足元は緩んでこない。ときどきシールをつけていないかのようにスキーが滑ってしまう。2,800m 弱で登高をあきらめ、今回の頂上とした。

安定しない斜面では、滑走の準備をするのも一苦労だ。慎重に準備をしていると、上から単独のスキーヤーが下りて来た。7合5勺まで上ってきたというが、山スキーは始めたばかりとのこと。リーダーは富士山の怖さをとくとくと語って聞かせた。確かにこの斜面、カチカチだったらどこまでも滑り落ちてしまいそう。滑落死が具体的にイメージできる。

そろそろと滑走を開始してゆっくりと高度を下げた。斜面は果てしなく広く、これって富士山のあの雪の部分なんだよね、と思うとさすがに感慨深い。登頂すればより一層感動を覚えるに違いないが、こればかりは天気とか体力のほか運も味方につけないと難しいのかもしれない。



スタート間近は固い雪面で慎重に



すぐに雪が緩み快適ザラメテターン



！さんも豪快にアルペンターン



雲海を見下ろしこれぞ須走の広大斜面です



Nさんはテレ仕様でアルペンターン 富士山初挑戦のUさんも極上ザラメを楽しむ



2820mから 2320mまでの滑走、登り返しを加え累計標高差はこの時期満足の 700m

雪が切れたところで再度スキーを担ぎ、ざれた道を下った。帰りにはリーダーご推薦「和製グランドキャニオン」（自衛隊富士演習所敷地内ですが入れます）の地層を眺めて歩き、「御殿場温泉会館」で砂埃を落として帰途についた。



昨年偵察しておいたグランドキャニオン



アザミライン下部は桜が綺麗